

図書 紹介

正しく怖がる感染症

著：岡田晴恵（白鷗大学）

発行：(株)筑摩書房／〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3／新書判／206頁／

価格 820 円（税別）／2017 年 3 月 10 日発行

グローバル化した現代社会では、地球の一地域で発生した感染症も海外渡航、海外からの観光客の増加等により、そのリスクが飛躍的に高まっており、その予防や対策について適切な対応が必要になってきている。本書では、デング熱、マラリア、重症熱性血小板減少症（SFTS）、梅毒、エボラ出血熱、結核、ジカ熱、風疹、コレラ、破傷風、狂犬病の 11 種を経路別に取り上げてその感染を予防する対策について解りやすく解説した入門書である。

- 1 章 昆虫が運んでくる感染症
- 2 章 接触することですつる感染症
- 3 章 吸い込んでうつる感染症
- 4 章 母子感染で重篤化する感染症
- 5 章 飲み込んでうつる感染症
- 6 章 傷からうつる感染症
- 7 章 動物からうつる感染症

次にサブタイトルを見ていくと、1 章のデングウイルス感染症- 媒介者は蚊では、治療薬とワクチン／日本ではヒトスジシマカが媒介する／デングウイルス感染症 2 つの病気／デング出血熱という病気／輸入感染症から国内感染へ、マラリア- 重要な感染症では、マラリアには種類がある／マラリア原虫の発見と殺虫剤／マラリア撲滅計画の頓挫／21 世紀現代社会とマラリア、重症熱性血小板減少症（SFTS）- マダニが運ぶでは、日本での SFTS 患者の発生／マダニはどのようにウイルスを媒介するのかなどである。

2 章の梅毒- 日本の 20 代に激増では、梅毒には隠れ感染者がいる／先天性梅毒の危険性／特効薬サルバルサンを開発した秦佐八郎、エボラ出血熱- 風土病が広がる時代では、2 歳の男の子が最初だった／5 種類のエボラウイルス／人から人への感染経路／交通網の発達で風土病が首都へ運ばれる／日本に侵入したらなどである。

3 章の結核 古くて新しい感染症では、感染と発症は違う／発病するとどうなるのか／治療薬と耐性菌の出現／日本の結核 今後の問題などである。

4章の先天性ジカウイルス感染症—小頭症児の発生では、ウイルスを運ぶ蚊／その症状は／深刻な先天性ジカウイルス感染症とは／国家緊急事態宣言を出したブラジル／WHOの「緊急事態宣言」／検疫では侵入を止められない／性感染症でもある／先天性風疹症候群との相違／ジカウイルス感染症の現在、風疹（先天性風疹症候群）では、日本の流行は大人が中心／東京都の風疹抗体調査結果／妊娠初期の妊婦が感染すると／先天性風疹症候群を防ぐためになどである。

5章のコレラー水で大流行では、コレラ毒素を産生するコレラ菌／コレラ流行史／大流行はなぜ起こるか／コレラの現状と注意すべきことなどである。

6章の破傷風—震災でクローズアップでは、最強の神経毒素／破傷風トキソイドワクチンの導入／災害時にリスクが上がる／予防ワクチンの接種方法についてなどである。

7章の狂犬病—世界150カ国で発生では、感染から潜伏期・発症／予防がすべて／海外に出掛ける前にワクチンの接種をなどである。

章間のコラムには、日本紅斑熱の発見／アンネ・フランクの発疹チフス／産褥熱の悲劇／一葉と肺結核／アガサ・クリスティの描く風疹の悲劇／ジョン・スノウ博士の「感染地図」の6つである。

あとがきでは、経路別ではなく、鳥インフルエンザについて大半を費やし、その防衛対策として「流行時には出歩かなくとも基礎的な生活が維持できる少なくとも2週間分を備蓄する」ことを推奨している。現実的には難しいが、各人がそのような覚悟をもって臨みたいものである。

学会誌では、今秋から「新興・再興感染症」15稿（エボラ出血熱、ヒトT細胞白血球ウイルス感染症、後天性免疫不全症候群、*H.pylori*感染症、C型肝炎、インフルエンザ、重症急性呼吸器症候群・中東呼吸器症候、重症熱血小板減少症候群、結核、デング熱、劇症型溶連菌感染症、マラリア、レジオネラ肺炎、腸管出血性大腸菌感染症、ジカウイルス感染症）が開講される予定である。（学会事務局）

なお、著者の書籍「感染症は世界史を動かす」（第 33 巻 7 号）など、「H5N1 強毒性新型インフルエンザウイルス日本上陸のシナリオ」（第 35 巻 1 号）、「H5N1 強毒性新型インフルエンザウイルス来襲から家族を守れ」（第 35 巻 5 号）を紹介しているので参照されたい。（学会事務局）